



ここにもあった 笑顔のすごさ！！

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

NMCAA
NO3

6月に放送された「やりすぎ都市伝説」のトータルテンボス藤田憲右さんのプレゼンツからご紹介します。高校野球のお話で、全国大会を30回も出場した凄腕のある監督がなぜかいつも決勝に行っても優勝できない。ある時敗因を探すために試合のビデオを見ました。すると、相手の選手・監督はニコニコやっているのに、かたや自分には鬼の形相で選手を怒っている。「こんなんじや、選手は委縮してしまつて勝てない」と思った鬼監督はその日から、手のひらに「笑」という字を書きましました。選手が守備につくと、一人ベンチ裏に行つて鏡を見ながら笑顔の練習をしました。すると次の年の春のセンバツ大会は、やはり決勝に行き、あつさり優勝してしまいました。対戦相手は、当時大阪で最強だった高校。その勝因は「笑顔」でした。当時はまだ厳しい指導が当たり前だったようですが、鬼監督が笑つたことで、厳しい練習だけじゃなく笑顔も必要という

ことが他の監督に広がったそうです。

同じくトータルテンボス藤田憲右さんのプレゼンツからです。0対8で負けていた高校が9回の裏に9点を取つて、逆転サヨナラ勝ちをした有名な試合があつたそうです。崖っぷちの9回裏の攻撃の前に、監督が言いました。「お前たち、お前たちの代の部訓は何だ？」キャプテンが答えます「部訓は、必ず笑うと書いて必笑です」監督「それがどうだ、負けが濃厚で泣いている奴もいるし沈んでる。負けてもしようがないけど、部訓を最後まで貫いて、胸を張つて笑つていこうぜ」選手「わかりました！」そして先頭バッターは、8点差がついているのに、笑いながらバッターボックスに入りましました。それを見た相手のピッチャーは、たまつたもんじやありません。「8点負けるのに、なにコイツ笑つてんの！次のバッターもまた笑つています。ベンチも笑つています。そして、笑いながら打席に入るバッターが……。あれよあれよという感じで、9点差を一気にひっくり返したのでした。そして甲子園出場を決めたのでした。

編集後記

私は笑いの健康効果、健康以外での笑いのすごさを高校野球から知ることができるとは思いませんでした。試合という緊迫したなかで、最も実力を出せることで、チーム一丸となつて流れを創りだすものが笑いなのだ、笑いのすごさ深さに本当に驚きました。鬼監督が手に書いてまで努力した笑顔も素敵です。選手だけでなく他の監督にも影響することは戦後にあつた厳しいだけから時代の流れをも変えるようです。必勝じゃなく必笑。どんな時も必ず笑うことをやつてのけたチームにもものすごく感動しました。信じるか信じないかがキーワードの番組ですが、笑顔をやるかやらないかは私達次第だと思いました。